

局地豪雨や土砂災害など風水害が、全国各地で猛威をふるつて  
いる。台風シーズンもまだまだ続く。大切な自宅や家財が被害に  
あつた際、頼りになるのが火災保険だ。契約内容の見直しや、新  
たに加入する際のポイントをまとめた。

(小谷野太郎)

国土交通省のホームページ。  
ジなどから閲覧できる  
る東京都中央区の洪水  
のハザードマップ

## 周辺のリスクまず確認

### ■公的支援は頼れず

火災保険は、火事による損害だけでなく、自然災害で家屋や家財が壊れた場合も補償してくれる。

8月に広島市を直撃した集中豪雨では、市内166か所以上で土砂崩れが起

き、74人が亡くなり、全壊家屋は133軒と甚大な被害が出た。国の「被災者生活再建支援法」は、被災世帯に最大300万円を支給すると定めている。ただ、新しく自宅を建て替えるの

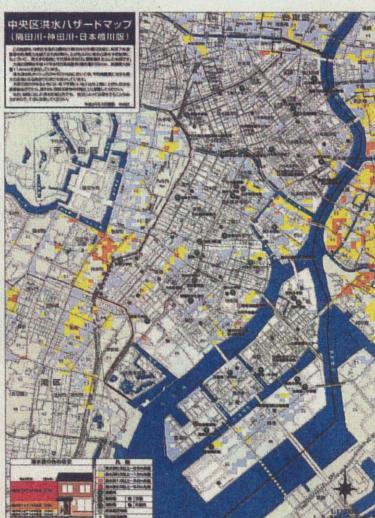
に、この支給額では頭金程度にしかならない。公的支援が限られる中で、頼りにしたいのが火災保険だ。

ファイナンシャルプランナーの■さんは、火災保険の契約内容を決める際

に、「住まい周辺のハザードマップや土地条件図などを確認して、どんな危険が起こりうるかを把握するのが第一歩」と助言する。

ハザードマップとは、災

害が見込まれる範囲や深刻度、避難先とそこへの経路などを示した地図だ。洪水や高潮、土砂災害など災害の種類に応じて市区町村などが作製した地図をインターネットなどで公表している。



## 風災、水災：種類ごと補償

火災保険は、火事や落雷などの補償が「基本契約」で、「風、ひょう、雪による損害」、「洪水や土砂崩れによる水災」など災害の種類ごとに補償する商品が一般的だ。家屋と家財、それぞれに契約する。

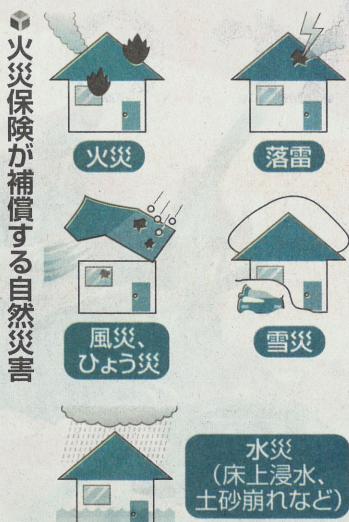
損害保険ジャパン日本興

亞が販売する「THE(ザ)スマートの保険」や、東京海上日動火災保険の「トータルアシスト住まいの保険」

パッケージ型でも、例えば自宅が地盤の固い高台やマンションの高層階にあれば、水災補償を外せる選択

などは、補償範囲が広いパッケージ型になっている。(補償タイプ別の保険料負担の目安は表の通り)。

一方、セゾン自動車火災保険の「じぶんでえらべる火災保険」は、基本契約以外は必要な補償だけを選ぶタイプだ。



※地震、津波、火山の噴火による損害の補償には別に「地震保険」が必要

### ◆補償タイプ別の保険料負担額

※大手保険会社のパッケージ型試算例。都内の一戸建て(耐火構造)で建物1500万円、家財1000万円の保険金額の場合。自己負担額3万円。保険期間は1年

補償タイプ	保険料(年)		
	建物	家財	合計
① 火災、落雷+風災、ひょう災、雪災	7120円	4710円	1万1830円
② ①+水災+盗難・水ぬれ	1万1720円	1万2320円	2万4040円

火災保険は、火事や落雷などの補償が「基本契約」で、「風、ひょう、雪による損害」、「洪水や土砂崩れによる水災」など災害の種類ごとに補償する商品が一般的だ。家屋と家財、それぞれに契約する。

損害保険ジャパン日本興業が販売する「THE(ザ)スマートの保険」や、東京海上日動火災保険の「トータルアシスト住まいの保険」

パッケージ型でも、例えば自宅が地盤の固い高台やマンションの高層階にあれば、水災補償を外せる選択

負担にもつながる。また、被災時に保険金を受け取るには、契約者が保険会社に自己申告するのが基本なので、覚えておきたい。